

2022年度

**NO.15** (通算 NO37)

2022・12・25

# 事務局だより

一般社団法人 **示現会**

事務所 ☎ 03-3824-9128

○ 2022年度事務局だより最終号

裏面 ○<特集> ○ 系の活動より 会誌係

今年度の「事務局だより」の最終号になります。皆様のご協力を感謝いたします。

1年のまとめとなる会誌を発行いたしました。会誌係の皆さん、このような時節でしたので、いろいろ大変でした。お疲れさまでした。

2023年、第76回展に向かい準備が始まりました。

今年以上に素晴らしい展覧会ができるよう頑張りましょう。

今年度の示現会展は七五周年記念の展覧会だった。とはいえない。このコロナ禍での展覧会、記念画集の発行と、示現会七五年の歩みを年表にして会場の壁面に掲示したぐらいである。出品者懇親会も、会場の上野精養軒にかかっている東京都の定員規制

令和四年を振り返って



事務責任者  
井上 武

## 一年間ありがとうございました

2022年も終わろうとしています。この1年、コロナ感染に一喜一憂、相変わらず振り回される1年でもありました。

全国の仲間とのつながりを目的に発行されてきた「事務局だより」も3年目を迎え、今年度15回の発行ができました。閉塞感が大きい中、示現会の活動の様子が全国の会員で共有できたのではないかと思います。

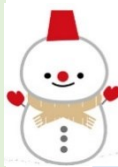
コロナの対応も変わってきてはいますが、まだまだ油断できない状況でもあります。

皆様どうぞお体を大切にしてください。

来年の76回展に向けてすでに示現会展の準備が始まっています。

皆様、力を合わせてよい1年にいたしましょう。

で、百名弱の氣勢の上がらない静かなものであった。そのようなスタートだったが、本展以外の各支部での巡回展は、コロナ規制のかかる中、各支部の創意工夫で感染者を出すこともなく、無事乗り切ることができた。支部といえば、この困難な中、支部展、研究会、写生会等々積極的に取り組んでいた。昔、我々が先輩の「支部あつての示現会」の言葉が、今更ながら重みをなす。



## 76回展に向けて

76回展に向けて動き始めました。

11月25日(金)示現会館にて、「搬入」の仕事等それぞれの係主任、及び担当理事、そして「東美」「ヤマト」「六光社」等業者関係の出席でシステム会議を行いました。

これは例年行われているもので、76回展に向けてのそれぞれの業務の確認と、75回展での問題点などを洗い出し協議いたしました。次回は3月23日(木)美術館で最終確認が行われます。

## 76回示現会展準備までの主な日程

- 1月15日(日) リモート研究会
- 1月22日(日) 発送(入場券など)
- 2月14日(火) 会計監査・理事会
- 2月19日(日) リモート研究会
- 2月28日(火) 懇親会出席可否締め切り
- 3月 7日(火) 定時会員総会
- 3月19日(日) 展覧会用品準備
- 3月23日(木) 受付設営・システム会議 絵葉書申込期限

## お知らせください

**現寿賞該当者の方は事務所までお知らせください**

2023年に88歳を迎える方を現寿賞として表彰いたします。会友以上の方で該当者は事務所までお知らせください。 ☎ 03-3824-9128

11月27日(土)

## システム会議実施



## 会計からのお願い



毎年年会費の納入を滞りなく収めていただきありがとうございます。2023年度会費徴収は1月下旬頃に皆さんのところへ用紙が届くように準備をしています。今年は画集の費用の徴収がありませんので例年通り、会員6万円、準会員4万円、会友3万円の徴収になります。納期は3月末日までを予定しています。郵便局の振込用紙(払込取扱票)を利用してお振込みください。会員の数が減ってきて会の財源が厳しくなっています。皆様の会費で会の活動が支えられています。会費納入によりしくご協力お願いいたします。 会計主任 石橋俊博

# 特集1

# 準備始まる！

## 76回展に向けて

11月の「システム会議」、そして「発送」と着々と第76回展に向けた準備が進行しています。1月には2回目の「発送」の業務があり、また「リモート研究会」も始まります。リモート研究会には大勢の参加を待っています。

12月4日(日)、1回目の発送を行いました。まだまだコロナ感染が続いている中ですので、人数を絞っての業務となりました。10時集合で3時過ぎまでの作業となりました。応募用紙、ポスター、そして会誌など、皆様にお届けしました。



前列中央 中西（庶務副主任） 安藤（研究所補佐）  
後列左側から 錦織（庶務主任）、倉本 北島 田原  
遠山（会計副主任）伊集院（事務員）佐藤（事務副責任者）石田、山口、井上（事務責任者）石橋（会計主任）  
菱田の各委員と理事の皆さん



## 委員の仕事

七六回展の準備が始まりました。五月に役員、委員に七五回展の反省のアンケートを取り、それをもとに、一月一日に臨時の理事会を開催しました。ここで七六回展に向けてのいろいろな問題を洗い出し、一月

二五日のシステム会議で検討、そして業者との作業の確認などを行いました。展覧会に向けて各委員はおおよそ、四から五以上の仕事を受けて持ちます。七六回展は会員にも仕事の分担をお願いすることになりました。

## 会誌の発行

75周年記念号として、とても素敵な会誌になりました。いろいろ制約のある中での作業でした。会誌を担当した係の皆さんに一言いただきました。これは、会誌の最終ページにも掲載しています。

新会員が「プロフィール」欄で情熱的に喜びを語るのに感動をした。年齢を問わず絵を描くことが大好きで、精一杯努力をしてきた成果が実ったからだろう。係の一員として少しでもお役に立つよう努めたい。（北島裕子・委員）

校正作業には、近頃では電子辞書が、大変便利で手離せません。漢字や送り仮名のチェックに大活躍です。絵を学ぶために入った会の仕事で、今、国語も学び直している気分です。頭の老化防止も期待しつつ…（菱田直美・委員）

何年も遊びに出掛ける事がなくて、久しぶりに日帰りで上高地へ行って来ました。天気に恵まれ秋の森を歩き、美しい稜線を眺めてうっとり、美味しい空気を吸って体の中が透明になって帰って来ました。（宮本順子・委員）

たくさんの原稿を読んで感じた事。絵を始めたきっかけ、恩師との出会いなど、人それぞれ違っていますが、共通しているのは絵を通して得た喜びや人とのつながりです。これはかけがえのない宝だと思います。（山村早苗・委員）

全国旅行支援も漸く開始され、さあスケッチへと意気込むもすでに予算終了のサイトもあり、政策のよぼさに呆れます。ならば毎日飲み歩き微力ながら日本経済に寄与しようと決意しました。（中西 敦・委員）

毎年発行されています会誌ですが、今回は受賞者の写真や文章等のレイアウトを担当しています。（森田徳美・委員）

昨年使用していた老眼鏡が合わず、今年の校正は度が進んだ眼鏡になりました。100 号の絵を描くことも目の酷使になり、老化の進みを実感しています。来年もこの眼鏡が使えることを祈るばかりです。（藤間捨久・会員）

コロナもやや落ち着いてきたが油断は出来ない。最近はずいぶん体がガタが来ているのを実感する。心身共に健やかに老いる為にも、絵を描き、歌を歌い、友と語り合うことが如何に重要かと思うこの頃である。（中村一雄・会員）

今回初めて班長として会誌編集に臨みました。これまでの班長のようになり、一冊の会誌を不備なく纏めることが出来るだろうかと大変不安でした。75周年記念の年でもあり、例年とは違うものにしなけれぱという思いもあり悩みました。コロナ禍で係が集合することも難しく、アンケートなどで意見を聞いた後、カットを募集したりし、仕事を進めました。佐藤祐治先生が担当理事として就いてくださることになり、大船に乗った気持ちになりました。佐藤先生は「75周年記念特集号」として企画する方向に導いてくださり、特集記事を全て構成してくださいました。

### 会誌係班長を経験し感じたこと

◆会誌は示現会に所属する人、一人一人の「意思」を繋げる大切なものとも感じました。それぞれの項目ごとに原稿依頼を受けた方々は大変丁寧にお応えくださり、全国からの意思が伝わってききました。これらを会誌に綴ることは、示現会をひとつに繋ぐ大切な手段であると改めて感じました。◆会誌の仕事は、期限があり大変緊張しましたが、原稿をお寄せくださった皆様、会誌係のメンバーの協力に助けられ無事発行できました。ほっといたしました。

永江咲紀子

皆さんからの一言を募集中です。絵のこと、地域の様子など、お知らせください。  
メール先 佐藤祐治宛 [sato\\_y@d6.dion.ne.jp](mailto:sato_y@d6.dion.ne.jp)  
なお、示現会のホームページの「メールでのお問い合わせ」でも投稿できます

